

次世代に伝えたいこと

シニアライフ構築の第一歩として、最初に調べたのが生活の本拠地としている那珂川町(平成 30 年 10 月に市になります)の基本理念でした。町では「町民憲章」と呼ばれています。その憲章のなかに「歴史遺産を守り 文化の香り高いまちをつくりましょう」という一文があります。歴史遺産を守るということは、その歴史を知らなければ起こらない現象です。ですから、シニアライフとしての地域活動のテーマを「ふるさとの歴史を、次世代を担う若者たちに伝えていく」と決めました。

テーマを実現するため、那珂川町「歴史を学ぶ会」という組織を作りました。会の仲間は 24 名ですが、手分けして次世代に伝えるべきテーマの選定に努めました。その視点は、町の歴史の中でみんなが「まちのだから」として誇れるものです。

最初の成果は、『肥前・筑前街道-脊振坂越』です。平成 26 年 4 月の刊行です。この街道は、文化庁の歴史の道・百選に選定されている由緒ある古道ですから、多くの若者たちに知ってもらわなくてはなりません。

次の取り組み」成果は、テーマが平成 27 年 12 月に刊行した『さいふまいの道』です。この道は江戸時代に栄えた天神さま(菅原道真公)信仰の参詣道です。この古道が那珂川町に存在していたということも知られていません。現在取り組んでいるテーマは「裂田^{さくたのうなで}溝」です。1600 年前に造られた、と伝えられている灌漑用水路です。裂田溝の土木工事の様子が、奈良時代の養老 4 年(720)に著された最古の歴史書『日本書紀』に書かれています。驚くべきことは、灌漑のための水路が 1600 年を経ても現役として活躍していることです。このこともぜひ伝えていきたいテーマです。

このようにして刊行している「やさしい歴史書」は、多くの町民の皆さんに愛読されるとともに、小・中学生たちの社会学習の副読本として学校教育でも活用されています。ふるさとの歴史書を刊行するだけでなく、求められては教壇に立ち、若者たちを現地に案内し、歴史の解説にも努めています。